

巻 頭 言

人間発達学部学部長
澁 澤 透

人間発達学部は来年度で開設10周年を迎えます。卒業生を5度送り出し、現在小学校77名、保育所53名、幼稚園・こども園62名、特別支援学校13名が現場で働いています。歴史も浅く小規模の教員・保育士養成学部ではありますが、これだけの卒業生が教育・保育に携わっていることを考えるとあらためて学部教育の責任を痛感せざるを得ません。

さて、いよいよ来年度から教員養成・保育士養成のカリキュラムが変わり、新しい教育課程に基づく学部教育がスタートします。幼稚園では小学校への接続を意識した教育、小学校では実践的力を高める教育、保育所では家庭を支援する保育がこれまで以上に求められていると言えるでしょう。

本学部は開設当初より「人の育ち、地域の育ちを支援する」人材を育成することを目標とし、それを実現するためのカリキュラムと諸活動に工夫を凝らしてしてきました。学部のディプロマ・ポリシーは、つぎのとおりです。

1. 豊かな人間性と社会性を身につけている人
2. 子どもの心身および子どもの学びについて深く理解し、ケアと指導ができる人
3. 子どもと地域との関係について深く理解し、地域における支援活動ができる人
4. 子どもと自然環境との関係について深く理解し、子どもの育ちを支援できる人
5. 人間発達に関する総合的な見識と実践力を身に付けている人

そして、これらをを具体化するために5つの柱から成るカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 人間力と実践力の基礎となる人間と社会と自然について、教養教育科目で深く学ぶ。
2. 子どもの心身と学びについて、専門教育科目「子どもの心身」領域で深く学ぶ。
3. 子どもと地域との関係について、専門教育科目「子どもと地域」領域で深く学ぶ。
4. 子どもと自然環境について、専門教育科目「子どもと自然」領域で深く学ぶ。
5. 子どもの発達を促す教育について、専門教育科目「子どもの保育と教育」領域で深く学ぶ。

開設以来このようなポリシーに基づく教育を行ってきていますが、教員養成に対する社会的要請はますます高度化してきており、教職課程コア・カリキュラムは教科と教科教育法の結合を求めるとともに「総合的な学習の時間」「特別支援教育」「英語教育」などの新しい科目も導入されました。これらの内容を「主体的・対話的で深い学び」を通じて習得していくことが学生に求められています。

今日の教員養成をめぐる論点でもある「省察的实践家」としての教師像と「専門的知識人」としての教師像を大学教育を通じていかに結びつけていくかという問題は、今後さらに学部として探究していかなければならない理論的・実践的課題となっています。

本紀要には、6編の論文、2編の研究ノート、4編の資料が掲載されています。関係者の方々の忌憚のないご意見ご感想をいただければ幸いです。